

## 令和6年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・**最終** )

昭和中学校区 校番22 学校名 呉市立昭和西小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	児童の実態、小中一貫の課題から目標を設定している。 指標は、テスト、質問紙、教師の見取りなど多面的に評価できるものを設定している。 理想と現実のギャップ見られる項目が一部ある。
目標達成のための方策の適切さ	A	新たな授業のユニバーサルデザインの取組を小中一貫で行うことで、取り残さない学力の定着が期待される。 コロナ禍が過ぎ去り、集団活動が再開され、異学年交流ができることで、特に高学年の自己有用感を高めることができる。 子どもが楽しく取り組めるよう工夫するなど、先生方のアイデアが感じ取られた。 明確な目標に向け、具体的な取組を重ねている。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	中間評価後の改善策で、ボールを投げる力や柔軟性を高めるために、児童が楽しんで取り組める活動や家庭を巻き込む活動を仕組み成果を上げており、先生方の努力がよく伝わってきた。 適切に結果を分析している。
今後の改善策(案)の適切さ	A	時程の大幅な見直しと改善策により、職員の業務時間の確保、人材育成、業務改善を進めることが根底となり、児童の知・徳・体の改善策が生きてくる。 実態に合った、取組が可能な改善策となっている。
その他		昭和西小学校の子どもたちには、「自分は〇〇だと思う。〇〇だと考える。」と言える子、書き表す子、何らかの方法で表現する子に育ててほしい。 効果があると思うので読み聞かせに取り組んで欲しい。 コミュニティ・スクールが導入されることにより、良い方向へ改善されることを期待している。 スタッフを増員するなど、呉市に教育現場にもっとお金を使って欲しいと強く願っている。 子どもたちのために、日々全力を尽くして下さっている先生方に、感謝している。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	成果のあった取組については、今後も継続し、組織的、計画的に取組を進めていく。 来年度に向け、各部で検討した改善に向けての新しい取組を学校内外との連携を強化しながら推進していく。
--------------------	---